

仲見世

雷門から浅草寺まで 250 メートルを埋めるように、商店が玩具、お土産、軽食、そしてその他の特産品を売る屋台が続いています。これが有名な仲見世です。

浅草寺が 628 年に創建されてから、その周囲は賑わいを見せていました。しかし、本格的に繁栄し始めたのは江戸時代（1603 年 - 1867 年）のことでした。それは部分的には、この寺が厄を除けてくれると信じて庇護者となった初代将軍、徳川家康（1543 年 - 1616 年）のおかげでした。

仲見世のうち、雷門と宝蔵門（別名仁王門）の間に広がっていた部分の商店は、主に玩具や土産物を買っていました。浅草寺に参拝するのであれ、吉原の遊郭を訪れるのであれ、浅草三座の芝居小屋を訪れるのであれ、歓楽街としてにぎわうようになった寺の奥にある奥山エリアまでその他の娯楽を楽しむために足を運ぶのであれ、浅草を訪れる人が増加し、仲見世の商人も増加しました。

明治時代（1868 年-1912 年）には、東京府が浅草寺を掌握し、仲見世の商人に商品の販売をやめるように命令しました。仲見世は、当時人気だった西洋風の赤レンガ造りの店舗と差し替えられましたが、1923 年の関東大震災で破壊されました。この地域の再建は、その 2 年後に始まりました。20 年後、この市場は第二次世界大戦末期の焼夷弾の爆撃でまた焼失しました。浅草の商人たちは諦めずに、今日の仲見世を築き上げました。今では現代的な店舗と伝統的な店舗が入り混じりつつ、レトロな外観が通底しています。88 ある店舗では、土産物や伝統的な商品からスイーツや軽食やアンティークの品までありとあらゆるものを販売しており、そのシャッターには浅草の様々な年間行事の様子が描かれています。この活気のある商店街を散策せずして浅草に行ったと言うことはできません。